

熊本市立大江小学校

ときめき

2023.10.18(水)
No. 72 文責 松永

五年生 集団宿泊教室(阿蘇青少年交流の家)いろいろな体験をしました①

5年生は10月3～5日の二泊三日で、阿蘇青少年交流の家に集団宿泊教室に行ってきました。新型コロナウイルスに加えて、インフルエンザといった感染症の広がりを懸念して、短縮や延期なども考えたその当時は、おさまっている状況でしたので、予定通りの二泊三日で出かけました。10月に入ったとはいえ、日中の暑さは、阿蘇も同様でした。でも、三日間雨が降らなかったことで、予定通りのプログラムができました。学校での出発式では、それぞれの目標を確認しました。私からは、5分前行動や自分で考えて動くことなど、宿泊教室だからこそ体験を通して力をつけてほしいと話をしました。先生たちの見送りを受けながら、県立劇場でバスに乗り込み、一路阿蘇へ出発！



阿蘇青少年交流の家に到着したら、入所式やオリエンテーションがあり、それが終わったら、広々とした草原でお弁当を食べました。そして、いよいよ最初のプログラムである谷越えオリエンティングへと移って行きました。次第に子どもたちの期待も高まっていったようです。全部で16あるグループごとに、時間差で出発して、ポイントを確認しながらコースを進み、途中にある指令に取り組むことになっています。とはいえ、大自然の中です。いろいろな局面が待っています。歩くのもきついです。そんな時こそ仲間の支えが必要になります。しかし、うまくいかなかった時は、思いがずれることもあったようです。でも、一つ一つ協力し合って乗り越えていくにつれて、まとまりも深まっていきました。



野外から帰ったところで、部屋に入って荷物の整理やシーツの準備を行いました。5時から広場に集合して夕べの集いがあり、一日の振り返りをしました。続いて夕食です。グループごとに食堂に入ると、どんなメニューがあるか興味津々の様子でした。バイキング形式ですから、思い思いに食べたいものをプレートにとっていました。食欲旺盛で、おかわりにも何度も行っていた子どもも多く頼もしく感じました。しっかり食べてエネルギーを補給したところで、次のプログラムはナイトハイクでした。時間差で班ごとにスタートして行きましたが、懐中電灯の灯りを頼りに草原を歩くわけですから、ドキドキ感も高まっていたようでした。またまた気持ちを一つにしないとうまくいきません。お互いに声をかけて、交流の家に戻ってきた時には、「暗くて怖かったです」「草がふわふわしていました」「いっぱい歩いたから足がやばいです」など、様々な感想を聞かせてくれました。その後、前半・後半に分かれての入浴となり、一日の記録をしおりに記入したり、就寝準備をしたりしました。屋外での活動は暑かったですし、昼間も夜も山道をたくさん歩いたからでしょうか。子どもたちは、少しお疲れモードのようでした。中には早めに休みたいという声も聞かれ、予定よりも早い消灯となりました。夜も静かにゆっくりと休むことができました。



くまモンの形に草が刈ってありました

